

Building lifestyle around Ferrari

"殊勲賞"ものの違和感コラボ

去る10月12日、両国国技館でフェラーリ・ジャパン主催による70周年記念イベント、『Driven by Emotion』のプレスコンファレンスが行われた。



その後、相撲界がこんな大騒ぎになるとは想像もしなかったが、10月12日、私は初めて両国国技館の中に入ることができた。天井近くには最近優勝した力士の写真がズラリと飾られ、"他の目的"で来ているのに、日本の国技を否応なしに意識させられる。もちろん前号でご紹介したオカダ・カズチカ選手が所属する新日本プロレスの試合も行われるし、大晦日にはさだまさしさんのライブも予定されている。しかし日本相撲協会のHPを見ると、"国技館貸館予定"と書いてあるから、あくまで相撲を中心とした場所なのだ。

そして"他の目的"とはもちろん、フェラーリが世界各国で70周年を記念して開催した『Driven by Emotion (情熱に突き動かされて)』の日本版としてフェラーリ・ジャパンが主催したイベント、そのプレスカンファレンス出席のためである。

カンファレンスは和太鼓から始まり、フェラーリ・ジャパン&コリア代表取締役社長リノ・デパオリ氏とフェラーリ極東・中東エリア統括CEOディーター・クネヒテル氏がそれぞれ挨拶、プレゼンを行い、呼び出しの拍子木が鳴り響き、第34代木村庄之助氏(!)の口上でイベント名が呼び上げられ、ラ フェラーリ アペルタをお披露目、という流れ。その後、木村氏か

ら『フェラーリ ドリブンバイ エモーション セレブレーション 二〇一七年十月十二日 第三十四代 木村庄之助』と書かれた扇子を手渡すという、ある意味衝撃的な光景が目の前で繰り広げられた。なおその夜にはセレブレーションディナーとして、オーナー向けに同じ内容が行われたようだ。

会場をここに選んだ理由は『伝統、歴史、パワー、格式、パフォーマンス、エクスクルーシブ性。フェラーリと同じ価値観を共有する相撲の聖地』だからとプレスリリースに書いてある。正直、これは"やられた"と思った。"フェラーリと相撲"をテーマとした企画を準備……していたわけではないが、こういったいい意味での違和感はSCUDERIAでも狙っていきたいところであり、この企画を思いついた人こそ"殊勲賞"ものであろう。

さて今号の特集はイタリアらしさを表す"アモーレ、カンタレ、マンジャーレ"をキーワードとした、3つの企画をご用意した。題して『フェラーリ愛の賛歌』。随分と大仰なタイトルだが、こちらはストレートに我々の想いを表現した"敢闘賞"及び"技能賞"のW受賞狙い、といったところか。願わくはご好評頂き、これが年末恒例の"横綱相撲"となることを祈りたい。